
報告者名	岡山 卓矢	被調査者生年	1959年(男)
調査者名	岡山 卓矢	被調査者属性	旧釜谷集落住民(V-7話者)
補助調査者	土佐美菜実		

話者について

話者は元自衛隊員で、市ヶ谷・仙台・新宿などで勤務後、10年前に退職して釜谷に帰ってきた。

仮設住宅

釜谷からは三反走の仮設へ移った人が多く、100戸前後あるうちの3分の1くらいの家がそこへ入ったのでないかと思う。三反走には、ほかに長面・尾崎・北上の人が住んでいる。ただし長面の人は少なく、大半は追波川某公園の仮設にいる。追波川某公園には雄勝の人も多い。

釜谷地区の概要

釜谷では長面や雄勝の寺の檀徒も多く、全戸が観音寺の檀家というわけでない。釜谷のメインストリートを、大川小学校近辺より海側に向かって、上・中・下(カミナカシモ)と分けられている。入釜谷は現在は行政区が一緒で、はたから見れば同じ地区と思えるかもしれないが、部落としては別である。谷地中は10~20軒以下が住み、元は別の部落だったが、釜谷が大きくなって合体した。しかし神社は別で、道沿いに見える鳥居は谷地中のものである。釜谷の稲荷神社は毎年10月19日がお祭りで、去年は皆来て拜んでいったが、今年はどうなるか。この祭日になったのは、今の天皇が結婚した年からであり、自分の生まれた年と同年からである。以前は日程が違った。神楽もやっていたが、釜谷で踊れる人が1人だけになってしまい、他地区から応援に来てもらっていた。尾崎・長面などそれぞれの部落に神楽がある。

被災状況・その他

大川小学校の中へ入ると、1階天井は全て抜け、2階床が盛り上がっているので、波のあとだろう。釜谷の農業用溜池からはもっとも多くの遺体が見つかった。もとの奥入屋敷への細道にある溜池のポンプ小屋は、



写真1 排水中の北上川河口



写真2 釜谷溜池ポンプ小屋

釜谷で唯一残った建物である。雨風でかなり薄れたが、小屋の外壁には水位あとが付いているし、床には15センチほど泥が堆積している。釜谷霊園のところには、津波で流されたあと皆で拾い集めた墓石が置かれている。特に過去帳が流されたため法名碑を探したが、まだ1つ2つが見つかっていない。墓地をどうするか、元の場所に再び建てるか山を切って建てるか話し合われたが、結局元の場所の東へ土盛りして墓にすることとなった。

集団移転の話が出ており、道の駅上品の郷付近に候補地があるが、何人が行くことになるか分からない。結局2、3割くらいの人しか行かないのではないかしらと思うし、自身が行くかどうか迷っている。母ちゃんと2人だけなら場所はどこでもいいのだが、今横浜に住んでいる息子は、その移転先を実家として帰りたく思うだろうか、など考える。ただたまに皆で話し合いはしており、なんとかなるだろうし、なるようにしかならないだろう。

釜谷では約200人が亡くなっている。外で仕事してた人らは助かり、釜谷に残っていたじじいばば子供が亡くなった。津波が来るとも思わず、逃げようとしなかったかもしれない。若い人は田んぼをやる人などおらず、石巻や仙台へ働きに出ている。

今は河口に堤防が作られて排水が進められており、今日見えている作業は堤防に矢板を打ち込んでいるところである。これまでいくらやっても水漏れしたが、矢板が入れば排水がうまくいくだろう。

話者は毎日昼前に大川小学校へ来て花に水やりをし、松原の砂浜を歩いて遺体探しをしている。盆前にも手の骨を見つけた。波が荒れたあとは何かと流れ着きやすく、3日前も近隣で1人見つかったそうだ。今日も台風が近づいているので期待してきたが、ちょっと波が強すぎる。しかし波で流されてきたものは数日で砂に埋もれるので、まめに探さねばいけない。排水が完了すれば、松原でなくて川の中を探すつもりだ。獣の骨はよく見つかるが、人の骨を見つけれられたのは、この間が久しぶりだった。